

『主要農産物種子法』とは...
食料の安定供給のために米や麦や大豆の優良な種子を、国や都道府県が主導して、生産、普及することを目的として制定された法律なんだ。

たいへん!!
今度は種子法廃止だって!
またしても私たちの食料主権を脅かす問題ね。
「種子法」? 聞いたことなかった。
ほとんど報道されていないわね。
私も知らないわ。
新しい技術のゲノム編集に ついても不安よね。

GM穀物の加工品
エサがGMの食肉
GMが総重量の5%未満の製品
GM表示義務がありません!
生活クラブは全て表示しています!
NON GM

でもまだ表示制限の問題があるね

もしも... 1企業の1品種だけが普及して各地の特性にあった多様な品種が無くなってしまったら...
気候変動や戦争・政変など
急激な変化があった時、1品種ではすぐに対応できないかもしれない!
こんな時、私たちがならんとかできるの!!
作物が育たず...
食糧の危機に!!

種子法廃止で懸念されること

- ① 農業試験場などの予算縮小、種子生産の公的支えがなくなる。
- ② 特定の民間企業の寡占状態となり、種子の価格が高騰する。
- ③ 特定の地域で栽培されていたような種子品種の多様性がなくなる。
- ④ 多国籍企業の影響が強まる。

民間企業の種子産業参入の障壁となつていから
廃止されたらどうなるの?

廃止の理由

だから!!
生活クラブではアメリカの生産者に頼んでNON-GMトウモロコシを作ってもらっている!

国産品を食べ支え海外の生産者とも問題を共有することで
食の安全 食料主権も広げよう!

平田牧場の三元豚 さくらもみじ 丹精國鶏
三代前から国産鶏種
国産鶏の卵
異なる3品種を かけあわせた
みんな、エサまでNON-GM!

生活クラブは「種」の問題にも生産者とともに取り組んできたものね。
日本のカロリーベースの食料自給率はたったの**37%**!(2018年度)
先進国はほとんどの食糧輸入大国
国産の肉や卵でも... 食べてるエサのほとんどが外国産!!

だから、無視できない問題だわ!

そのNON-GMを安全に日本に持ってくるのも大事なことですよ?

アメリカの生産者 生活クラブ



フードデモクラシー
一食の民主主義
組合員が訪米が? 訪米レポート!



1997年1月
遺伝子組み換え作物・食品を取り扱わないことを基本とする
やむを得ず使用する場合は情報を公開して取り組む

不安だらけ...
食べて大丈夫なの? 種子を独占? 多国籍企業が種子を独占?
厚生省がGM作物を「食品」としての安全性を確認した。
除草剤? 耐性作物? 病害虫? 耐性作物?
生態系への影響は? いざなり輸入する? 研究してたの知ってたけど...

1996年
国がGM作物を認めちゃった!
1996年のGM農産物の輸入許可が始まりだったよね。
大豆 トウモロコシ 綿 ナタネ じゃがいも テンサイ 小麦
※現在、日本で認可されている作物

牛の飼料をNON-GMに変更!
キャンパなど水あめの原材料も! ユーンスターチをNON-GM目録に変更!
微量原料(仕込み重量5%未満)に至るまで
NON-GM対策を実施!

GM作物を作っているM社の説明を聞きにいったり...
生産者も! 勉強しよう!
わかんないから使わないの怖いよ

学習会にて
知れば知ればほど
これはダメ!
協力してもらわないと
STOP!GMO!

食のグローバル化・自由化の中で

TPP(環太平洋パートナーシップ協定)をはじめとした、地球全体をマーケットとする自由経済が広がる中、「種子法」廃止はわずかな審議時間で可決してしまったが、これに対して新潟や山形を始めとする自治体で種子法に代わる条例を制定する動きが広がっている。また、アメリカではGM作物と除草剤をセット販売するモンサント(独・バイエル子会社)は、除草剤の発がん性をめぐり裁判で敗訴が続いている。さらに、一部ではあるがアメリカの中で、生活クラブもモデルのひとつとされる地域支援型農業(CSA)の実践も始まっている。

遺伝子組み換え食品の登場

遺伝子組み換え(GM)作物とは、ある生物の遺伝子の一部を切り取って、他の生物の遺伝子に組み込んだもの。例えば害虫に対して毒性のたんぱく質を出す細菌の遺伝子を組み込んだトウモロコシや、特定の除草剤をまいても枯れない酵素を生成する遺伝子を組み込んだ大豆などだ。

生活クラブのGM対策

生活クラブは、消費材へのGM対策と情報公開に取り組んできた。2018年3月時点では、GM対象品目の85.4%、1406品目の対策を終えた。残り241品目が対策品だが、そのほとんど(218品目)が仕込み重量割合で1%未満の原材料のものである。カタログでは、マークで対策状況を開示している。

新たな遺伝子改変技術 ゲノム編集

ゲノム編集は、遺伝子の配列を自在に改変(編集)する技術。遺伝子組み換え技術と違うのは、「狙った」遺伝子の切断、編集、導入ができるようになったことで、自然現象での突然変異と見分けが付きにくいともいわれている。生活クラブでは、食の安全性・生物多様性・種子の独占・規制管理ルールが不十分などの観点から、ゲノム編集食品についても、消費材の原材料に受け入れないことを基本姿勢としている。